

多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」養成プラン
取組の概要と推進委員会からのコメント

		整理番号	6
申請担当大学 (連携大学)	京都大学(計5大学) (三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学)		
プログラム名	高度がん医療を先導するがん医療人養成		
事業推進責任者	武藤 学(京都大学医学研究科教授)		
取組の概要			
<p>本事業では、京都大学、三重大学、滋賀医科大学、大阪医科大学、京都薬科大学において、プレジジョンメディシンを実現する「ゲノム医療」、これまで対策が不十分であった「希少がんや小児がん」、そして「様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療」に対応できる医療人の育成を目指す。ゲノム医療では、ゲノム情報を理解し治療に結びつける医療人の育成に加え、家族性腫瘍などに対応できる臨床遺伝専門医や遺伝カウンセラーの育成を行う。希少がん、小児がんにおいては、病態解明および新規医療開発を荷う医療人を育成する。現在のがん医療は、社会構造の変化にも大きく影響されており、様々なライフステージとニーズに合わせたがん医療の提供が必要になってきた。特に、ロボット手術や高精度放射線治療など最先端の治療を担う人材に加え、がんの診断時から緩和医療を担える人材を育成し、幅広い領域の医療人育成とがん医療の発展に貢献する。</p>			
<p>推進委員会からのコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等</p>			
<p>○教育プログラムの達成目標が明確で評価体制も確立しているほか、それを実行するための実施体制として実習、教育コーディネーターを各大学に配置するなど、構想の実現可能性が高く評価できる。</p> <p>○ゲノム医療や小児・AYA世代・希少がんの医療や研究を担う人材の養成、リハビリテーションを含む治療法や緩和ケアに関わる教育など、本プランの方向性を踏まえた上で多様なコースが設定されており、これらに関する携大学内で教育のインフラが整っている点が評価できる。</p> <p>○ゲノム医療の臨床実装、希少がんと小児がん、様々な社会環境における医療や多岐にわたる併存症への取組等、多分野にまたがる総合的な医療を意識しており、各領域においてバランスよく対応している。また、遺伝性腫瘍、AYAがんなど複数臓器、長期間のフォローアップが必要な課題に対して、診療科・職種横断的な人材養成プランが十分に考慮されている。</p> <p>○取組の継続の観点から、自己資金確保、寄付講座の活用など財源確保の視点が盛り込まれている点が評価できる。</p> <p>●連携大学間での役割分担等の連携について明確化する必要がある。</p> <p>●がん患者や家族の視点を評価や教育内容に十分に反映できるよう対策を検討する必要がある。</p> <p>●男女共同参画、勤務継続・復帰支援についての具体的な方策について検討が望まれる。</p>			